１月　営農インフォメーション

水稲・麦の管理のポイント
小麦　・・・ほ場巡回を行い、排水対策の徹底と適期・適量散布の追肥を指導してください。
野菜　・・・家庭菜園では作付けの年間計画をたてましょう。

【小麦】

○　生育状況

11 月上中旬の播種ほ場を 12 月 15 日に調査しほ場状態は長雨も少なく晴れの日が続いているので生育は良好でした。草丈は平均で18.4ｃｍと昨年に比べ平均5㎝程度長いですが、茎数は㎡あたり約 248.7 本と昨年と変わりはありませんでした。令和 5 年産麦については、播種作業は天候に恵まれ概ね順調に経過しておりますが、今後予想される降雪により生育に障害が出ないように取り組みましょう。

○　排水対策

麦は排水対策が重要です。麦の安定収量・品質向上のため、ほ場の排水対策を徹底するように指導してください。排水不良のほ場では根の活力が低下し、肥料を十分吸収できなくなり、穂数が確保できず減収に繋がります。施肥前は特に留意し、特に年末、年始の大雪により排水溝の肩がくずれていないか、尻水戸まできちんと排水できているかを確認してください。排水溝がふさがっていれば、溝さらえを行い、降雨・降雪時に地表水が停滞しないように溝を切りましょう。

排水対策の様子

【野菜】

<u>１年を春～夏、秋～冬、周年に分けて、各野菜の作付計画を立てましょう。</u>

春～夏は、生育適温が高めで強い光を好むナス科、ウリ科、イネ科等の野菜が中心になり、秋～冬は、アブラナ科やキク科、セリ科、アカザ科等の葉根菜類が中心になります。根深ネギ、ショウガ、サトイモ等は、生育が春～秋の周年になります。また、畑での生育期間が秋～冬になる葉根菜類もあります。

同じ科の野菜を同じ場所に続けて栽培すると特定の肥料成分の欠乏や、センチュウや土壌病害虫の発生が助長されます。計画を立てる際には、各科の野菜を組み合わせた輪作を心がけましょう。

「連作障害とは、同じ場所で連続して栽培すると生育が悪くなり枯れてしまいますが、品目によっては、接ぎ木苗や土壌消毒により植付が可能になります。」

作付面積の限られたほ場での栽培については、特に下記の品目に注意しましょう。

連作障害の出やすい野菜：エンドウ、ナス、スイカ、ゴボウ、トマト、ピーマン、サトイモ、キュウリ、ジャガイモ、インゲン等